

# 令和5年度学校自己評価システムシート (県立伊奈学園総合高等学校) s26

目指す学校像	生徒一人一人の個性と資質・能力を伸ばし、切磋琢磨する中で高い志を持って希望をかなえる生徒を育成する学校
--------	---

重点目標	1 主体的に将来を考えさせる進路指導と、学習意欲を高めるよう工夫された授業を展開する。 2 保護者・地域・卒業生との連携を通じた教育活動の積極的な情報発信を推進する。 3 安心して通える安全な学校の中で、学習と部活動等の両立の実践を通じた充実した学校生活を実現させる。
------	--

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	5名
	生徒	10名
	事務局(教職員)	12名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。  
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価							
年 度 目 標				年 度 評 価 ( 2 月 1 日 現 在 )			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	<p>○ 進学校として生徒の希望進路実現の割合を増やしていくためには、3年間を見通した進路指導計画をより明確にするとともに、大学入試を見据えた計画的な授業展開や進学講習及び進路ガイダンスの充実と計画的な実施が必要である。また、キャリア教育の観点から、進学後の自身の生き方を主体的に創造できる自己教育力を身に付けさせることが必要である。</p> <p>○ 大学入試改革、新学習指導要領への対応のために、より一層の授業改善・指導力向上に取り組み、生徒の資質能力向上を図る必要がある。さらに、生徒に、より高い目標を持たせるための授業と進路指導の質的向上が必要である。</p>	<p>○ 生徒の進路実現のための組織的な取組を実施する。</p> <p>○ 授業改善と指導力向上により、生徒の学習意欲を向上させる。</p>	<p>① 各教員は、生徒の進路実現のための目標と方策を自己評価シートに明記する。</p> <p>② 進路指導計画に基づいて、担任や年次から個々の進路希望に応じたきめ細やかな指導を行う。</p> <p>③ 難関大学入試にも対応した各種進学講習体制を充実させる。</p> <p>④ 年4回の見直し共有会等での最新情報の共有、教員の意思疎通と理解を深め、指導に生かす。</p> <p>⑤ 各教員は、授業改善及び生徒の意欲喚起に連鎖する目標と方策を自己評価シートに明記する。</p> <p>⑥ ICTを効果的に活用した授業展開を進める。</p> <p>⑦ 科目選択ハンドブックを用いて連携した指導を行う。</p>	<p>① 当該教員の自己評価が高まったか。</p> <p>② アンケート等で進路指導に関する満足度が前年度より向上したか。</p> <p>③ 講習参加者の状況は、前年度より向上したか。</p> <p>①②③ 生徒の進路希望が90%以上実現できたか。</p> <p>④ 研修会等で適時に正確な情報提供が図れたか。</p> <p>⑤ 各教員の自己評価が高まったか。</p> <p>⑥ ICTを活用した授業の質的向上があったか。</p> <p>⑦ 生徒の科目選択満足度は80%以上になったか。</p>	<p>① 学年外の教員も授業や補講を通じて行う方策を明記し実践したので全ての教員の自己評価は高まった。</p> <p>② 約5割の生徒が満足、やや満足と回答。講習参加者は145講座、延べ1,445名で前年度と同水準。</p> <p>①②③ 進路決定率は、9割以上を見込む。</p> <p>④ 特別支援教育や進路分析会を開催し、情報共有と統一した指導ができた。</p> <p>⑤ 全ての教員が方策を明記し、取組の内容が明確となり自己評価は高まった。</p> <p>⑥ 9割以上の授業でICTを活用して進めている。</p> <p>⑦ 満足度は73%で、昨年度とほぼ同じであるが、科目選択で7割以上は高い満足度であると言える。</p>	A	<p>・全ての教員の自己評価シートに、進路実現・授業改善・意欲向上に向けた方策が明記され、自己評価も高まった。次年度も継続して取り組むべき方策を明確にし、実践する。</p> <p>・タブレットをノート、問題演習、視聴覚教材、プレゼンテーションツールとして、また、体育での動作分析に使用するなど、効率的に授業が行われている。授業での有効な活用と授業改善に継続して取り組む。</p> <p>・生徒に、より高い目標を持たせるための授業と進路指導の質的向上が必要である。</p>
2	<p>○ 学校説明会による生徒募集活動およびPTA・同窓会活動等による広報活動を通じて、本校の特色ある教育活動や成果を、様々な手段を使って発信していくことが必要である。</p> <p>○ ポストコロナにおいて、学校行事を充実させるための工夫が必要である。</p>	<p>○ 本校の特色や活動の成果などの積極的な情報の発信をする。</p> <p>○ 学校行事を充実させる。</p>	<p>① ホームページで動画配信を積極的に行い本校の特色や活動の様子をより理解しやすくする。</p> <p>② ホームページ、PTAや同窓会の広報誌等を通じて、学校の最新情報の発信を充実させる。</p> <p>③ 生徒一人一人が伊奈学生としての自覚と責任を持ち、年次やハウスを越えて自主的・主体的に行動でき、行事がより盛んになるよう指導する。</p> <p>④ 母校訪問や説明会、部活動体験を充実させる。</p>	<p>① ホームページでの動画配信を行うなど工夫できたか。</p> <p>② PTA、同窓会と連携して広報活動ができたか。</p> <p>③ 学校行事を臨機応変に対応できたか。また、生徒会活動を通して活発な意見交換がなされ、経験や伝統の継承ができたか。</p> <p>④ 中学生、保護者は、本校の理解が深まったか。</p>	<p>① 校内向けの進路や科目選択等の説明動画は配信できたが、一般向けの動画は検討中。更新回数は79回で、昨年度より増加。</p> <p>② PTA広報部に各行事の取材を依頼し、PTA広報誌に掲載した。</p> <p>③ 文化祭や体育祭は、感染対策を徹底し、保護者等の見学も入れながら実施できた。</p> <p>④ 学校説明会6回計画通り実施し、特色を周知した。</p>	A	<p>・HPの更新を定例化し、日々の取組の様子を可能な限りアップするなど、更なる工夫を図り、積極的な情報発信に取り組む。</p> <p>・生徒会活動や学校行事が前年度の踏襲にならないよう、良い部分は継続しながらも、工夫・改善を検討していく意識を高め、充実した学校行事を学校全体で取り組む。</p>
3	<p>○ 学習と両立しながら、複数の部活動が関東大会や全国大会で優秀な成績を収めている。引き続き、部活動方針や県のガイドラインを踏まえ、学習活動との両立、各活動の充実を図ることが課題である。</p> <p>○ 生徒の規範意識は高いが、自転車事故等もあり、交通事故防止や交通ルールやマナー指導が必要である。</p>	<p>○ 部活動等の効率的な活動と充実により、学習と部活動等の両立に主体的に取り組ませ、学習習慣を確立させる。</p> <p>○ 職員が一丸となり、様々な事故防止への取組を強化し、規範意識、安全に対する意識を高める。</p>	<p>① 各部活動等の顧問は、育成すべき資質・能力を自己評価シートに明記する。</p> <p>② 「D〇活」を軸とした学習活動(週末の課題、読書活動など含む)に学校全体で取り組み、指導する。</p> <p>③ 全教員の共通理解のもと、ホームルームや集会等を通じて丁寧な指導を行うとともに、生徒自身でマナーを考え行動できるように指導する。</p>	<p>① 当該教員の自己評価が高まったか。加えて、生徒の部活動に対する満足度は向上したか。</p> <p>② 生活実態調査で「平日・休日の平均勉強時間の増加」「勉強・部活動の両立ができた」と回答した生徒が前年度より増加したか。</p> <p>③ 前年度より生徒の事故件数、苦情件数が減少したか。</p> <p>④ ヘルメット着用が普及したか。</p>	<p>① 部活動は、8割以上の加入率を維持し、複数の部活動で、全国・関東大会へ出場を果たすなど、素晴らしい成績を収めた。自己評価シートに明記された育成方針による各顧問の熱心な指導の成果である。</p> <p>② 学習と部活動の両立ができていない生徒は約3割。前年度とほぼ同数。</p> <p>③ 昨年度より交通事故件数は減少した。マナーアップを向上させる。</p> <p>③ ヘルメット着用を推奨しているが、着用率を上げる工夫が必要。</p>	A	<p>・学習と部活動の両立ができていない生徒があるとの声を受け止めている。「D〇活」を含め、自学自習の習慣化を目指した方策を実施し、学校全体で学習と部活動の両立できる体制を構築することが必要である。</p> <p>・全教職員の共通理解の下、組織的な対応により、引き続き安心安全な学校づくりを目指す。</p>

学 校 関 係 者 評 価	
実施日	令和6年2月1日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<p>・高大接続の関係では、推薦型・総合型選抜入試が主流となっている。勉強だけではなく、多様な活動の評価をして合格者を出す必要がある。共通テストの受験者が増えているが、ゴールは豊かな人間性の育成を目標として、推薦型・総合型選抜入試で合格しても、継続して学習していく指導は大切だと考える。</p> <p>・国立大学は学力以外のものを評価する時代になってくる。大学としては学部学科再編成の動きになっている。理学、工学、農学やDX、データサイエンス関連の学科ができる時代が来るが、高校生は選んでくれるか、保護者へ大学の変化を説明する必要があると思う。</p> <p>・主体的に進路を考える進路指導、「主体的に」とあるが、ものさしのような尺度はあるのか。仮にないのであれば、今後どうやって測るのか、検討いただきたい。高い目標に向かって進んでいこう、ということだが、振れ幅は人によって違うと思う。</p> <p>・保護者として推薦型・総合型選抜入試は、大学を良く知った上で受験できるので、推薦型・総合型選抜入試を選択した。情報を保護者と先生方と共有する必要があると感じた。思春期で子供と会話する機会がなかったが、受験を通じて娘と対話する機会を持った。</p> <p>・保護者への情報発信について、学校やPTAからある程度、全国高P連の講演の内容などを発信することで、保護者への啓発につながるのではないかとと思うので、参考にしてほしい。</p> <p>・小中学校も学校を変えていかなくてはならないと思っはいるが、なかなか変わっていかない。うまくやれば資質能力があがる方法があるのではないか。子供たち同士で学びあうことで資質能力を上げていきたい。教員や保護者は一斉授業を受けてきた世代である。これを変えることで子供たちの幸せをと思うが、なかなか難しい。</p> <p>・評価懇話会では、グループディスカッションを通して、生徒の考えや思いが読み取れた。これからは主体的に考え、協働して課題解決に向かう姿勢が重要なので、指導に生かして欲しい。</p>	